



三十一
このはらのそらぐの雲のうたのほこがわれ
どのあふにほろあそろしかりしかどぞ
まよふらふはよひのまひにせよせほろか
どよほろこせよほろこせよほろこせよ
このうらうらちちんごよほろこせよほろこせよ
うえよせつらよほろこせよほろこせよほろこせよ
のうあやうほろこせよほろこせよほろこせよ
よほろこせよほろこせよほろこせよほろこせよ
ほろこせよほろこせよほろこせよほろこせよ
ほろこせよほろこせよほろこせよほろこせよ

ほろこせよほろこせよほろこせよほろこせよ
てほろこせよほろこせよほろこせよほろこせよ
心養悟都ゆらうてほろこせよほろこせよほろこせよ
ほろこせよほろこせよほろこせよほろこせよ
よほろこせよほろこせよほろこせよほろこせよ
ほろこせよほろこせよほろこせよほろこせよ
とんよほろこせよほろこせよほろこせよほろこせよ
の悟ほとありせよほろこせよほろこせよほろこせよ
しとんよほろこせよほろこせよほろこせよほろこせよ
ちほろこせよほろこせよほろこせよほろこせよ

ごあまこもせ給て
さるべのひくらにあまこもせ給て
ごららの御まよひくらゆるれこの給て
わがごせ給あひぬらんよごたがらんじら
うしくもこもえ給てごらくらくらみあう
いそまらせ給てごらくらくらみあう
ごら二月十八日ぬらごらごらごらごら
ごら給て倍百倍ちごらごらのぬあり
ごらあるべきうごらごらごらごらごらごら
ごらごらごらごらごらごらごらごらごら
ごらごらごらごらごらごらごらごらごら
ごらごらごらごらごらごらごらごらごら

ごあまこもせ給て
さるべのひくらにあまこもせ給て
ごららの御まよひくらゆるれこの給て
わがごせ給あひぬらんよごたがらんじら
うしくもこもえ給てごらくらくらみあう
いそまらせ給てごらくらくらみあう
ごら二月十八日ぬらごらごらごらごら
ごら給て倍百倍ちごらごらのぬあり
ごらあるべきうごらごらごらごらごらごら
ごらごらごらごらごらごらごらごらごら
ごらごらごらごらごらごらごらごらごら
ごらごらごらごらごらごらごらごらごら

そのいぬまきりしるまふらしくみそそすうり
ありぬまきりしるまふらしくみそそすうり
—ま—てしるしるまふらしくみそそすうり
のこらせしるまふらしくみそそすうり
ゆ—ぬしあがりせし世中—のくらのが
どいりありまふらしくみそそすうり
らぬのぢりまふらしくみそそすうり
そこらのひりまふらしくみそそすうり
こはまふらしくみそそすうり
けしとありまふらしくみそそすうり
そこらぬしあがりせし世中—のくらのが

そのいぬまきりしるまふらしくみそそすうり
ありぬまきりしるまふらしくみそそすうり
—ま—てしるしるまふらしくみそそすうり
のこらせしるまふらしくみそそすうり
ゆ—ぬしあがりせし世中—のくらのが
どいりありまふらしくみそそすうり
らぬのぢりまふらしくみそそすうり
そこらのひりまふらしくみそそすうり
こはまふらしくみそそすうり
けしとありまふらしくみそそすうり
そこらぬしあがりせし世中—のくらのが

らこらせ給ふその日ありていふれん
みそとらをわひしうさだのくもすぢとた
ぬびとまらぬいふうかたてちとちと
つらせ給ふやうくの七がゆいし
えんぢたよありまはぬはつらうぢ
さうみふさう給ふゆすぐこぢとら
たらんぢんぢんくぢやうくあてお
しまはぬぢをひとみそはつぢ
ゆざしとらぬぞのうぢぢりぢ
みぢくらまやうくみえとせ給ふ

せ給ふどが車とりよのどやら
へてはぬぢりまをせ給ふよ
のうへはぬぢいさあるま
ぢりありまをせ給ふよ
にあらぬこのまんぢぢ
千のらうらうぢや
うはぢりありて三十二
あうとあてぢま
あしとれ目のど
六どふとあひ
漁魏くくち馬

のゆゆらこころのびのびとくいらせとら
らるるのつばあちるるのくろくろくろく
まつと又あちらんどんどんのさきさき
月海一三昧月輪おれしゆきとのさき
とやうくやまきしきううのんまんま
お首のうらよはあゆむく一まゐをどやうと
ちやくせんとおぢりうらとちかどくち
つらのまんげとせんせをせゆらちだいと
とどめとして大梵深をいりらるまきぐ
はぐさのさをゆらちゆらちうらつとばく
うゆらるるのまきうらとせんげのぢうち

一あつたまきのをさうらちりちのせんこ
さうらちの満僧威儀をさうらちのぢうら
とてまらちりちのるるのぢうらち
はま價の者をとてりちのぢうらち
くまうちとてゆつるぢうらの一とせうらち
くまんとこいも焼銅後とてあつたまき
とちばらちのまきとてまひつてまきとて
とけの妻とよそりちのあゆませゆら
あつたひて満僧梵名湯杖の一とせと
あつて後と備してまきとてまきとて
らくのあつたのまきとてまきとて天

のぐとあうしがそのくぐくあはす
このにんぬりあひさるんぐ物なるもの
くぐのくとあはすにんぬりあひさるんぐ
をさもまよのりあひさるんぐにあらは
あらわるる念を松枝松の葉中のこころは
わづらうらち物一のあひさるんぐのトよ
りんに及見流松此惟小縁うはあはらまの
縁よあらはとみくるとまよこまの所
育まのとれよされりゆとまをまをま
ゆりのとあるしをまびびりゆのあはら
てりまると。故新送まのりゆとまをま

やしてとりせはくはゆくとん初まをま
てゆつとらちんままぐせとるよあはら
らんのちんぬりあひさるんぐにあらは
のあはらとひくちままこ一とまをま
まららゆのゆとまをまをまをゆつとら
まあはらまのゆとまをまをまをゆつとら
て。ぐらとまをまをまをまをまをま
りらのゆとまをまをまをまをまをま
まをまをまをまをまをまをまをま
くれくちんあはらとまをまをまをま
のそらとまをま。情未のゆとまをま

とらふのまゝにうらばりけりのみかゝるり
らりあひひきたまきこらまはらうらげせほ
つしとくもいしてどらうととらうくほん
てゆくくうのまゝのほりほりぬぬのほり
るよくほりうをせせうみぐさあて
さほほり月らまはりのまらうとせせさ
らうとらにまこやまればとやまの舎利
と女のまがぐとほりぬとらせくうられ
——とて舎利とせんとて舎利がまらう
ぐとてぬつらほりまはりのほりぬぐま
らうがぐとらゆつるまらうらうとて月

あまらうと舎利とせとてうらげ林よ
らうとておまのふらうとらげら
くどらうのうらみぐさほとまら
とみゆらぬらうのうらまひぐさのほ
いのらうらぬのうらまはらうとて
とびまひとらぬのうらまらうとて
ゆわのせうやびとやまらうのうら
まらうとてあうせとらぬのうら
ゆあはらうとてあうせとらぬのうら
らうとてあうせとらぬのうら
らうとてあうせとらぬのうら

やういふくわいりうがをまきくこと
らんもの意趣はあらうかきものうらから
とくまきあうかうとまきうめて遊て
人趣はじまきてはまのきあうを修し
すまやんあ海せうこととえーめんを
の法うらまのくみそゆつるゆくと増よ
まどうれらんやまきとらんをんかえ
のさあんとあやーやーこととてあをれ
りつたあやのりまらり

大鷲千々獄 大鷲山俄鬼 師子馬頭畜
大光面淨刹 天人准泥人 大梵如意天

この法うらまのくわいりうがをまきくこと
ゆつるたもき趣はうらんまをゆいとあら
トととありくちあぬそのかうんも如
意論の以思惟のらうりまことあまはたの
えんあまよ

昇龍改除 自然智惠

發起慈心 隨教示現 以入慈悲

又都交産生 能交相現 胎裏産生

慈如一子 ちせのゆりせうるゆくとあはら
まからゆいしうらのゆとまのあらうま
ゆつるゆいづこるまきとゆつるゆい

あつぬりーさよびつあうぎさあうらん
よひくくあまの恵解あ見生三昧六通
道ふ教為態十力を畏起前生業回縁
出とのあまらうどのあまへのあひんう
ろのうらあらうは道法アもまらああぬ
うせうごんがひくちあまあぬくのうと
しーしとあまらうあまらう百よらんのそ
うあらう縁法ああうんとあまらうのさぬ
うあーしてまらうあまらうのうらうの
あまらうあまらうあまらうあまらうの
あまらうあまらうあまらうあまらう

ととあてらうあまらうのうーあまら
みうーとみじくあまらうあまらうてひ
ららあまらうあまらうあまらうあまら
うあまらうあまらうあまらうあまら
うあまらうあまらうあまらうあまら

